２０１４年　第３７号　　発行　橋本　和子

すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと　和子

市民相談はお気軽に　公明党控室　４３６－３０３２

希望の未来へ!あなたと市政のかけ橋に

「笑顔で・誠実・迅速に」をモットーに「笑顔の庶民派ＮＯ．１」を目指し、「現場を歩き」「対話に動く」皆様とのひざ詰の対話を行ってまいります。

災害対策用自家用給油取扱所を設置

消防局長・副議長・市長・消防委員長・消防団長

大規模災害発生時にガソリンや軽油の供給が途絶えても、災害時の消防・救急活動を継続して維持できるよう、消防車両・救急車両などへの燃料の供給を確保するため、**北消防署小室出張所敷地内**に設置されました。

ガソリン20キロリットル
軽油10キロリットル
（おおよそ消防車140台
救急車280台分に相当）

5月29日（木）に開所式が行われ、消防委員長として、人生初のテープカットをさせていただきました。緊急時には、市の公用車も利用します。

平成26年第2回定例議会の報告をさせていただきます。

平成26年度補正予算を含む条例改正等の議案17件の議案質疑をしました。

船橋市消防団員退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例

消防団員は非常勤特別職の地方公務員であると同時に、本業の傍ら自発的に参加するボランティアの性格も併せ持っています。郷土愛と使命感にあふれる地域防災のリーダーとして消防団員が存分に活躍でき、どのような事態に遭遇しても犠牲者を出さない体制の構築が必要です。

男性の消防団員は、地元を中心に団が結成されていますが、女性の場合は、人数が少なく、地元というより、市内全体が活動の場となっています。

女性消防団員は市民に対する防火講和や応急手当の普及、啓発活動や市民祭り等の行事で、消防団のPR活動に大きな役割を果たすなど、ソフト面で活躍しています。

今後、更にその活動を広げるため、女性消防団員の増員も必要と考えます。

男性女性分け隔てなく、団員確保をしていくことは当然ですが、地域を挙げて、消防団を応援する仕組みを作っていく必要があると思います。

他県市の取り組みを紹介します。

長野県では、全国に先駆けて、消防団活動に協力する事業所への「応援減税」として、事業税の2分の1（上限10万円）を減税することを始めました。

松山市では、団員証を応援事業所の登録店舗で提示すると、割引や特典が受けられる、消防団員応援事業が行われています。

登録店舗は、飲食店、居酒屋、温泉施設、美容室などで、特典は、ドリンク1杯無料や飲食代・技術料の割引、粗品進呈など各店独自のものとなっています。

京都市では、「消防団1日体験入団プログラム」として、高校生を対象に、基本知識の習得や、消防団員から直接活動の様子を聞き、放水訓練やロープ結索訓練等を行っています。消防団との距離を縮め、近い将来、地域の防災活動に参加したとき、躊躇することなく消防団に入団できる環境づくりをしています。

平成13年頃に、二和小学校で、11分団中心に、放水やロープの結び方などの実演を通し、防災学習を県下初の試みとして開催していました。数年で、終わってしまったようですが、地元の方から、ぜひ復活してほしいとの声が寄せられています。消防団員の都合と受け入れが可能である学校から、始めてほしいと思います。

5月31日（日）旧ららぽーと駐車場で、消防団ポンプ操法大会が行われました。

障害者相談支援事業所サポート事業（補正予算）

指定特定相談支援事業所（市内15か所中5か所）と委託契約をし、無業者を新規雇用してもらい、サービス等利用計画の作成補助等を通し障害福祉サービスの経験を積ませることにより、同分野での就業に結びつける事業です。「地域人づくり事業」

将来の福祉人材を育成していくので、障害者福祉に関心を持ってもらうことが必要であり、熱意のある人を確保しないといけない。潜在的な人材を含め、どのように新規開拓していくのか、伺ったところ、幅広く応募してもらうために、職安を通じた募集を必須とし、委託先事業所においても、ホームページ等活用し幅広く募集を行うなど、地域の潜在的な人材候補者の発掘に努め、「障害者を直接支援する事業」の人材育成をする。との答弁でした。

主な業務内容は、「サービス等利用計画」で、介護保険のケアプランに相当するものを作成します。

＊詳しくは、http://funabashi.gijiroku.com/をご覧ください。

はしもと　和子　090－5574－9079

ホームページ　hashimoto－kazuko. jp

市政に関するご意見・ご感想をお寄せください。